

山番号	山名 (別)拳ヶ岳、三方山	登頂順	標高M
67	甲武信ヶ岳	75/100	2,475
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
2009.6.7		63	6/6甲武信岳小屋
平成21年			
メンバー	主催	関西ツアーリスト	6/5夜行バス
単独	複数	ガイド	人数
			25
ツアー	現地ガイド	福沢氏	歩程 6/6 8:13 6/7 4:50 標高差1.042m
コース	6/6 毛木平6:10⇒十文字峠・武信白岩山・三宝山⇒14:23甲武信小屋 6/7 甲武信小屋6:20⇒6:40 甲武信岳山頂 ⇒11:10毛木平⇒	交通手段	往路:6/5竹田22:15バス⇒6/6:50毛木平 現地: 復路:6/7毛木平⇒6:10バス⇒19:10竹田

わざわざ梅雨時に来た。小雨の中十文字峠を過ぎると「乙女の森」のシャクナゲが濡れて満開、なるほど、だからここに「十文字小屋」を建てたんだ。山小屋のロケーションに付いてもそれぞれ深い事情や想いが有るのだろう。「シャクナゲ小屋」にしなかったのは何故か。登山者の関心は小屋からの眺望、小屋の歴史や雰囲気、主人の人柄、自慢料理、風呂、布団、トイレ……。この時期超満員できつかったが愛らしいシャクナゲと山頂からの富士の眺めで帳消しだ。



山番号	山名 (別名)甲州御岳山	登頂順	標高M
68	金峰山	57/100	2,595
登頂年月日	山頂天候	年齢	祭日を挟んでの東京、松本出張。途上の立ち寄り登山。
2002.6.19		56	
平成14年			
メンバー	6/18東京⇒甲府。甲府ワシントンホテル		
単独	複数	ガイド	ツアー
			6/19松本ニューステーションホテル。1階の「白馬」でいつもの「岩魚の骨酒」で一杯。 6/20諏訪、松本⇒帰宅
コース	6/18 大弛峠7:18⇒9:50 金峰山 11:00⇒13:00大弛峠 ＜歩程5:40 標高差240m＞	交通手段	往路:6/18JR, 現地:6/19レンタカー 復路:J6/20R



山にはその山らしさのポイントが有る。それが頂上にあるとそれだけでも登りたくなる。金峰山はその一つだ。大弛峠から瑞牆山荘迄を縦走したかったが、単独登山で前後日程の都合上、前夜に甲府でレンタカーを借りて大弛峠から金峰山を5時間で往復するルート設定になった。朝日岳を越えるが標高差が少なく気軽なハイキングコースだ。頂上には鳳凰山登山で印象深い地藏岳のオベリスクのような大きな五丈石が聳える。その存在感にどうしても目指したくなる山だった。

山番号	山名 (別名)蝦夷富士	登頂順	標高M
69	瑞牆山	72/100	2,230
登頂年月日	山頂天候	年齢	今回は長兄の古希祝いの集まりで上京するついでに東京発の登山ツアーに参加した。
2006.11.23		65	
平成23年			
メンバー	主催	アミューズトラベル	11/21府中アーバンH泊、11/22都内ウォーキング
単独	複数	ガイド	ツアー
			11
リーダー	瀬川氏	11/23府中アーバンH泊、11/24府中	
コース	瑞牆山荘10:10⇒11:00富士見平小屋⇒13:27山頂13:45⇒16:15山荘 ＜歩程6:05 5.6 標高差720m＞		
交通手段	往路:京王、新宿7:00バスで瑞牆山荘前	復路:山荘16:23バス⇒温泉⇒20:10新宿解散	

瑞牆山は花崗岩の岩峰で近くの小川山は6年前、後立山連峰縦走に備えてロッククライミングのトレーニングに来た岩峰地帯だ。慣れない素手のトレーニングで、数日後両手の指先の皮が剥けたことを思い出した。頂上からは4年前登った金峰山の五丈石が近くに見える、富士、南アルプス、八ヶ岳の360°Cのパノラマが楽しめた。



このツアーではガイド(業界はリーダーと呼ぶ)の瀬川氏の時間配分が光っていた。11人の足音で休憩を判断したそうだが、いろいろ細やかな気配りが行過ぎず且つあっさりとして絶妙だった。山男は粗野のように見えるが概して気配りが細やかだ。これは参加する多くの女性の声を反映しているように思う。気の利かないガイドは良くも悪くも「アンケート」で淘汰されていくのではないかな。

山番号	山名 (別名)	大菩薩岳	登頂順	標高M
70	大菩薩嶺		1/100	2,057
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋	
1962.5.15		17	都立武蔵高校は1年生の夏に全員で「入笠山」に登り「すずらん小屋」に泊まる。2年生の5月にはクラス単位で全員大菩薩峠にある自前のヒュッテに泊まり、大菩薩嶺に登るのが恒例となっていた。	
昭和37年				
メンバー	主催	都立武蔵高校		
単独	複数	人数	リーダー	
		50	2年C組担任 小山 騎 先生	
2回目以降の登頂	1965.8.8-9	1996.5.1-3	1968.10.1-3	
	1997.5.16	2000.5/21	他	



遠足や林間学校で奥多摩の登山以降、高校1年の時、学年で入笠山に登ったのが山らしい山の最初だった。2年の大菩薩嶺は百名山の中で最初に登った山となった。私にとっては登山の原点であり、一番多い回数登った山でもある。大菩薩峠の「勝縁荘」の近くに建つ切妻の「武蔵高校大菩薩ヒュッテ」は4、5年先輩が卒業記念に建てて寄贈してくれた小屋だ。以降2年生が5月にクラス単位で泊まるのが恒例だった。バスで裂石まで入って2時間で到着、まず皆で布団を干し、自炊をして食事、キャンプファイアーを楽しんだ。当時山岳部といえば一度も洗わない雑巾のような臭いシャツとトレパンでグラウンドをうさぎ跳びをしていた。そもそもワングルは「自然と触れ合い生活をする事」と知っていたらワングルはもっと身近になっていただろう。

山番号	山名 (別名)	丹沢山	登頂順	標高M
71	丹沢山		39/100	1,567
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋	
1999.10.23		53	10/23 蛭ヶ岳山荘	
平成11年				
メンバー	石橋氏は会社の同僚。松下混声合唱団のメンバーでゴルフが上手くよく一緒にプレーをさせてもらった。更に彼は樹木や植物に詳しく、自然観察会にも何度もつれて行った。彼とは尾瀬の蛭ヶ岳、高尾山にも登った。			
単独	複数	人数	神君	
		4	桜井さん 小川さん	
10/23	大倉7:15⇒11:20塔ノ岳⇒13:30丹沢山13:30⇒15:43蛭ヶ岳山荘	<歩程8:30 標高差1,383m>		
10/24	山荘6:40⇒蛭ヶ岳⇒往路8:15丹沢山⇒9:35塔ノ岳⇒12:45大倉			
交通手段	往路:10/23溝ノ口(石橋氏の車)⇒大倉	現地:	復路:10/24大倉12:45⇒15:30溝ノ口	

私は24歳まで府中の実家に居た。家から西の空を見ると南北に長く連なる山々のスカイラインが見える。山名を同定したことは無いが、何となくその形が今でも記憶残っている。左の丹沢の山々から右に目を移して行くと馴染みの奥多摩、そして秩父の山々が望めた。その中央に群を抜いて高く富士が鎮座している。今回は同僚の石橋氏と登る。クマザサの尾根をたどって塔ノ岳、丹沢山そして蛭ヶ岳山荘と歩みを進めた。丹沢の主峰は蛭ヶ岳だ。1,700mにも満たないが標高差は1,383mも有り、蛭ヶ岳山荘まで8時間半も掛かったが、週一ゴルフの石橋氏の足は私より軽かった。小屋からはきれいな富士が大きく望めた。



山番号	山名 (別名)	富士山	登頂順	標高M
72	富士山		2/100	3,776
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋	
1968.7.7		22	八合目小屋	
昭和43年				
メンバー	私の母は5歳の時、一家5人で富士山の頂上迄登った。当時の新記録?で新聞にも掲載された。強力(剛力)の尻を押してふざけている当時の写真がある。			
単独	複数	人数	神君	
		4	桜井さん 小川さん	
7/6	立川⇒大月⇒河口湖⇒五合口⇒八合目小屋			
7/7	小屋⇒山頂⇒素走り⇒御殿場⇒小田原			
交通手段	往路:JR、富士急、バス	現地:	復路:7/7バス、JR 7/8小田急、京王	

男女4人で富士吉田口から登り、御殿場口を下るコース。まだ馴れない山登りのためペース配分も成り行きで、後ろ手で淡々と登るモンペ姿の老女と何度も抜きつ抜かれつだった。結局小屋に着いたら客にお茶を出していた。初日は8合目の小屋に泊った。



日没後、河口湖がきれいに見え、満天の星に感動した。狭く低い蚕棚に肩を接して雑魚寝をした。翌朝登りの途中で御来光を迎えた。頂上では浅間大社にお参りをして下山。霧の須走りを快調に下ると軽い頭痛が消えたが、代わりに足の靴ずれが痛んだ。運良く同行の女性たちは看護婦、手際良く手当てをしてくれた。その夜は平塚の七夕祭りを楽しんだ。